



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2959号 2016.4.13 発行

6 言語ボードで相談支援 東京の財団、県警に寄贈

神戸新聞 2016年4月12日



明治安田生命保険の今泉宏久神戸支社長（左）から県警の上田芳敬地域部長に贈られた「支援ボード」＝県警本部

外国人や言葉が不自由な障害者とのやりとりに役立ててもらおうと、明治安田生命保険（東京）の関連財団は12日、兵庫県警に「警察版コミュニケーション支援ボード」6700部を贈った。警察への相談時によく使われる文章や単語がイラストとともに6言語で記され、指さし形式で会話ができる。

同財団が社会貢献活動として全国の警察に寄贈しており、2008年に続き2回目。外国人観光客の増加などを踏まえ、前回の4

言語（日本語、英語、韓国語、中国語）に、ポルトガル語とスペイン語を追加した。

A3判とA4判のシートで、「救急車を呼んで」「みちをおしえて」などの相談内容や、コンビニや駅など目的地を示す単語をまとめて掲載。財布や携帯電話など所持品に関する言葉もある。県警は県内の全49警察署や交番、パトカーに備え付ける。

今回は小さく折り畳めるタイプも新たに用意され、地域警察官が携帯する。同社の今泉宏久神戸支社長から寄贈を受けた県警の上田芳敬地域部長は「しっかり活用したい」と話した。（田中陽一）

32人地域に飛び出す 連携授業スタート

大分合同新聞 2016年4月13日

学生32人でスタートした大分大学と大分合同新聞社の連携授業＝12日午後、大分市の大分大学且野原キャンパス

地域社会の在り方を考える大分大学と大分合同新聞社の連携授業が12日、大分市の同大学且野原キャンパスで始まった。双方の包括的な連携協定に基づく初の取り組みで、「18歳選挙権」で1票を手にする学生の市民意識を育むのが狙い。体験型の主権者教育を通してさまざまな社会問題に向き合い、解決策を探る。



授業は経済学部1年生を対象にした「地域社会の課題解決型ワークショップ」。初年度の前期は男子12人、女子20人の計32人が選択した。現場でのフィールドワークやグループワークを軸に7月下旬まで授業を重ね、貧困、障害、家庭環境などから生じる「社会

的差異」について考える。

担当教員は計6人。教授2人、准教授1人のほかに学外から専門家を招き、大分合同新聞社は記者2人が非常勤講師として加わる。

初日はオリエンテーションがあり、学生は6班に分かれゲームで交流。経済学部長の市原宏一教授（56）が「まずは体験して『何か』を見つけてもらう。大学4年間で何を学び、どのようなことをするか。それを考えるきっかけにしてほしい」と授業の目的を説明し、これから本格化する体験活動の内容を確認した。

工藤幸太郎さん（18）＝大分市＝は「みんなと仲良くなれた。体験を積み重ねながら地域の現状を学びたい」、後藤日菜子さん（18）＝同市＝は「今後は楽しみ。授業を通してコミュニケーション能力を磨きたい」と意気込んだ。

今後は県内の子ども支援施設や障害者授産施設などで体験交流活動を計画。県内の高校生と18歳選挙権について考える特別授業なども検討している。副学部長の石井まこと教授（49）は「社会の問題を考えていく上で、いいスタートが切れた。主体性はグループの総合力で生み出せる。互いを尊重して意見を出し合い、何かを生み出すことを学んでほしい」と話している。

南葛SC公認バーガー 地元障害者施設で開発

読売新聞 2016年04月13日

ボリューム満点のナンカツバーガー

◆移動販売車に「大空翼」

人気サッカー漫画「キャプテン翼」の主人公・大空翼が所属したチームにちなんで名付けられた、同名の葛飾区のサッカークラブ「南葛SC」公認のバーガーが誕生した。その名も「ナンカツ（南葛）バーガー」。地元の障害者福祉施設の利用者が開発したオリジナル商品で、10日から翼のイラスト入りのシートを貼った移動販売車で販売が始まり、人気を集めている。



「ナンカツバーガー」は、手作りのナンにハムカツと千切りキャベツを挟み、ソースとマヨネーズで味付けしたボリューム満点の一品で、1個300円。社会福祉法人「原町成年寮」が運営する知的障害者向け福祉施設「奥戸福祉館」（同区奥戸）でパンを製造・販売している利用者たちが、「部活帰りの地元の中高生が気軽に食べられる商品を」と考案。施設のある南葛飾地区にちなんで名付けた。

当初は施設周辺などで販売していたが、好評だったことから昨年6月、施設職員の中島房枝さん（34）がチームに「公認」を求めたところ、快諾してくれた。「キャプテン翼」の原作者、高橋陽一さんが同SCのために描き下ろしたイラスト入りのシートを貼った移動販売車で販売も認められた。

シートを貼った販売車は10日夜、区総合スポーツセンターで行われた同SCのホーム開幕戦でお目見えした。試合開始前の午後5時頃からナンカツバーガーの販売を始めると、ファンらがたちまち列を作り、用意した40個は1時間足らずで完売。応援に来ていた江戸川区の中学2年、濱口爽さん（13）は「ナンがもちもちしていて、ハムカツとの相性もバツグン」と満足げだった。

10日の試合は、同SCが接戦を制し、見事今季初勝利を挙げた。ナンカツバーガーは、今後も区内で行われる試合やチームのイベントで販売される予定で、チームの運営代表を務める朝田貴則さん（40）は「南葛SCの知名度も上がってきている。一緒に選手の活躍を盛り上げてほしい」と話している。

生活保護の加算に認定漏れ（秋田県）

秋田放送 2016年4月12日

県の山本福祉事務所管内の3世帯で生活保護の障害者加算などに認定漏れがあり、あわせて420万円あまりが支給されていなかったことが明らかになりました。



加算の認定漏れがあったのは、県の山本福祉事務所管内で生活保護を受給している3世帯です。県によりますと、このうちの1世帯では2009年11月から先月までの6年5か月間、生活保護に加算されるべきだった障害者加算や重度障害者加算など、あわせて379万円あまりが支払われていませんでした。ほかの2世帯に関しても、それぞれ2年間で36万円あまりと4か月間で6万円あまりが加算されない状態で生活保護が支払われていました。原因について、県はケースワーカーの見落としなどのミスという認識を示し、「チェック体制の強化など再発防止に向けて真摯に取り組んでいく」と話しています。なお、不足分は県がそれぞれの世帯に全額賠償することにしています。なお湯沢市の2世帯でもこの加算の認定漏れがあったことが明らかになり、現在、市が金額を精査しています。

事業所内保育園が開業 トヨタカローラ札幌南9条店 放課後デイサービス併設

北海道新聞 2016年4月12日



事業所内保育園でスタッフと遊ぶ子どもたち

札幌市中央区の「トヨタカローラ札幌南9条店」（南8西7）に今月、事業所内保育園と発達障害のある子どもたちが通う放課後等デイサービスがオープンした。いずれも社員以外の利用が可能。市によると、両施設を併設するのは市内では珍しいという。

運営するのは、市内で訪問介護などを手掛ける「ケアアシスト」（西区）で、以前から保育分野への進出を検討していたという。自動車販売のトヨタカローラ札幌から事業所内保育園を設置したいという相談を受け、発達障害で支援が必要な子どもが近年増えている傾向を踏まえてデイサービスの併設を決めた。

施設はいずれも店舗2階にあり、保育士や介護福祉士など資格を持つスタッフが対応する。デイサービスは学習支援を重視し、障害に応じて個別に学べる態勢を整える。

デイサービスは中央区の住民が対象。保育園は誰でも申し込みが可能。問い合わせはケアアシスト（電）665・8772へ。（須田幹生）

幼い命に家庭の愛を 県境越え支援へ



中日新聞 2016年4月13日 静岡

◆県内に広がる「特別養子縁組」「里親委託」
子どもの家庭養育推進官民協議会の発足を祝う知事や市長、民間団体の代表ら＝4日、東京都港区の日本財団ビルで

虐待などで親元にいられない乳幼児が家庭的な環境で暮らせるよう、特別養子縁組や里親委託を促進する取り組みが静岡県内に広がっている。十八歳未満の保護が必要な子どもが里親に委ねられる割合を示す県内の里親等委託率は過去十年間で大幅に拡大。静岡、浜松両市は県境を越えた支援態勢づくりに乗り出した。

厚生労働省の統計では二〇〇三年度からの十年間、虐待で死亡した生後一カ月未満の乳児は全国で百十一人、うち九十四人が一日以内の死亡だった。静岡家裁沼津支部が十二日に少年院送致を決定した富士市の当時高校生の少年少女も、出産当日に殺害している。

特別養子縁組は一九八七年に新設された。乳幼児が虐待、遺棄された場合、実親の同意がなくても別の家庭の養子にできる。望まない妊娠・出産のケースも実親が同意すれば適用される。幼い命を守る役割が期待される制度だ。

養子縁組あっせんを担う家庭養護促進協会（大阪）によると、特別養子縁組の受け入れ希望者は不妊に悩む夫婦が多い。岩崎美枝子理事（75）は、一時的な養育を前提とする里親への委託と比べ、「子の成長に必要な大人との安定した信頼関係を築ける」と養子縁組の利点を話す。だが特別養子縁組は全国で年三百～五百件にとどまり、保護が必要な子の1%にすぎない。

現状で、多くは乳児院や児童養護施設で暮らす。養子縁組希望者を含む里親への委託も16%にとどまる。家庭で暮らす子を増やすため、国は「おおむね三分の一」の委託率を目標としている。

県内の一四年度末の里親等委託率は27・2%で、〇四年度より16・6ポイント増加した。厚労省の統計では大分県などに次いで全国トップクラスの伸び幅だ。県こども家庭課によると、行政と里親会のつながりが深いことから里親支援の手厚い静岡市が委託率39・2%とけん引している。各児童相談所で施設入所より里親委託を優先するようにしたという。担当者は「子がより相性の合う親に巡り合えるよう、今後も担い手を増やしていきたい」と話す。

今月四日の「養子の日」には、静岡、浜松市など全国二十自治体と民間十三団体による「子どもの家庭養育推進官民協議会」が発足した。メンバーらは特別養子縁組や里親委託を推進することを確認した。

鈴木康友浜松市長は発足式後、「家庭での養護を県内に広げるため市が先例を示していくことが大切だと思っている」と語った。

<養子縁組と里親> 養子縁組には実親と子の法的な関係が続く普通養子縁組と、新しい親の法的な子になる特別養子縁組がある。特別養子縁組は一般的に里親として6カ月以上の試験養育期間を経て、家庭裁判所が認めれば成立する。全国の児童相談所や民間団体が親子の仲介を担う。要件を満たさない場合、虐待などで親元を離れた子は18歳で委託関係が切れる養育里親や施設に委ねられる。（小佐野慧太）

幸せを呼ぶ菓子「ぼるぼろん」人気 福島の被災障害者支援の思い詰め

東京新聞 2016年4月13日



スペインが発祥の焼き菓子「ぼるぼろん」

取手市立福祉会館内にある「パンダカフェ」が限定で販売している手作りの焼き菓子「魔法のおかし・ぼるぼろん」が、市民の人気を集めている。東日本大震災で被災した福島県の障害者約200人が、協力し合って製造、販売している。わずか直径3センチの小さな菓子に、多くの人たちの思いが詰まっている。（坂入基之）

ぼるぼろんは、スペイン・アンダルシア地方が発祥の祝い菓子。シナモン風味で、口に入れると、ほろっと崩れ、溶けてしまう。溶ける前に「ポルポロン！」と3回唱えると願いがかない、幸せになれるとされる。

被災した障害者を支援している「JDF（日本障害フォーラム）被災地障がい者支援センターふくしま交流サロンしんせい」が発案し、2013年に日清製粉グループの技術支

援を受けて、ぼろぼろん作りが始まった。提携する13の福祉事業所が製造や箱作り、販売、発送などを手分けしている。

この取り組みを知った取手市の中学校教員の相良絹子さんが、パンダカフェを運営する取手市文化事業団（代表・藤井信吾市長）に販売を呼び掛けた。昨年11月から入荷し、1箱（8個入り）500円で月20箱を限定販売している。「福島を支援したい」と、まとめ買いする市民らで、すぐに売り切れるという。保存料を使っていないため、販売は冬季のみで今月いっぱい終了する。

相良さんは「一過性ではなく、継続してできる福島支援として文化事業団に提案した。パンダカフェをアンテナショップに、販路を全国に広げたい」と意欲的だ。

交流サロンしんせいの富永美保さんは「温かい応援はありがたい。菓子作りは『自分の役割がある』と仕事に誇りをもってもらうため。相良さんたちの支援は心強い」と感謝している。

高齢者偏重、是正を＝社会保障見直し提言－自民若手 時事通信 2016年4月12日

自民党の小泉進次郎農林部会長ら若手議員でつくる「2020年以降の経済財政構想小委員会」（小委員長・橋慶一郎総務部会長）は12日、中間提言案をまとめた。「高齢者に偏った社会保障の見直し」が柱で、夏の参院選から選挙権年齢が引き下げられることをにらみ、若者を意識した内容となっている。

提言案は、「ルールからの解放」と題し、人口が減少しても持続可能な社会保障制度構築の必要性を強調。生産性維持のため「子育て世代の負担を減らし、現役世代を増やす」と訴えた。



人生のリスクにおける社会保障ピンチ救う 安全網色々 読売新聞 2016年4月12日



これからの人生自力で乗り切れない 困難にぶつかっても大丈夫かしら？

だれしも健康で自立して暮らしたいと考えているよね。でも、長い人生には思

いがけないトラブルに直面することもある。ピンチを救い、安心して暮らせるよう、国は、社会保障制度の網を張り巡らせている。

高校生を出発点に制度とのかかわりを見てみよう。就職して結婚、子どもが生まれれば、予防接種を無料で受けたり、子どもを預ける保育園を利用できたりする。離婚して一人親になった時には児童扶養手当、工作中にけがをした時は、無料で治療を受けられる労災保険がある。

会社が倒産して仕事を失った時は雇用保険が頼りになり、賃金の一部が受け取れる。再就職がかなわず、収入が途絶えたら大変。本当に困った時には生活保護の出番。最低限必要な生活費を受け取れる。貧困に陥るのを防ぐ最後のとりでだ。

年を取って退職すると、年金が老後の生活を下支えしてくれる。長生きしても、亡くなるまでずっともらえる。自分や親が病気やけがをした時は、医療保険が支えてくれる。治療代や薬代などのお金の心配をせずに、必要な医療を受けられる。介護が必要になった時にも、介護保険を使って、ヘルパーが食事や着替えなどを手助けしてくれる。

社会保障制度は人生のリスクに備えた安全網といえるよ。(野口博文)

死去の秋山ちえ子さんは「太陽の家」応援団長 大分合同新聞 2016年4月13日

「秋山ちえ子の談話室」で中村裕博士の功績を紹介をする秋山ちえ子さん
＝1999年12月2日、OBS大分放送のスタジオ

6日に99歳で死去した秋山ちえ子さんは、別府市の社会福祉法人「太陽の家」の広報役を担い、障害者を取り巻く雇用環境の進展に大きく寄与した。法人の創設者、故・中村裕博士の活動に共鳴し、1972年4月、国内初の福祉工場となる「オムロン太陽」(同市)の操業を実現させた。

国や県の給付金を必要とする授産型から、自活できる近代工場への変身を目指した太陽の家。博士は秋山さんの人脈を通じ、オムロンの立石一真社長(当時)と出会うことができた。オムロンの成功が呼び水となり、ソニー、ホンダ、三菱商事と一流企業の参入が相次いだ。

生前、秋山さんは「中村先生と太陽の家は、私の生涯で記念すべき出会いであり、誇れる仕事でした」「太陽の家で障害者福祉が起こった大分は、全国のリーダーとして頑張っていた」と語っていた。

博士の妻、中村広子さんは「秋山先生は太陽の家や障害者スポーツの発展などを支援、協力してくれた恩人。自らを“太陽の家の応援団長”と言って、障害者を温かく見守ってくれた。心よりお悔やみ申し上げます」とコメント。

県福祉保健部の草野俊介部長は「太陽の家を通じ、大分県の障害者福祉、雇用の発展に大きく貢献していただいた。秋山さんの思いを受け継ぎ、諸課題の解決に当たりたい」と話した。



万引き有罪、再犯でも猶予判決＝「認知症が一定の影響」―神戸地裁

時事通信 2016年4月12日

万引きで有罪判決を受け、執行猶予中にまた万引きしたとして、窃盗罪に問われた神戸市の女性被告(61)の判決が12日、神戸地裁であった。長井秀典裁判長は「認知症が犯行に一定の影響を及ぼしており、非難はある程度限定される」と述べ、懲役1年、保護観察付き執行猶予5年(求刑懲役1年6月)を言い渡した。執行猶予中の再犯に猶予が付くのは珍しい。女性は犯行後、衝動を抑えにくくなるとされる前頭側頭型認知症と診断されていた。長井裁判長は「手口がやや稚拙で、衝動を抑制しづらい状態にあったとみることも可能だ」と指摘。「これをきっかけに被告は認知症を認識し、親族も援助を約束してい

る。社会での更生が期待できる」と執行猶予の理由を述べた。判決によると、女性は昨年9月11日、神戸市内のスーパーで、リンゴなど5点（計800円相当）を盗んだ。女性は2014年、別の万引きで懲役10月、執行猶予3年の有罪判決を受けていた。

住民「看板設置前に説明なく唐突」…保育園断念 読売新聞 2016年04月13日

千葉県市川市で4月1日に開園予定だった私立認可保育園が、近隣住民の反対で開園を断念した。

市が12日記者会見し、経緯を説明した。同市は全国で9番目に多い373人（2015年4月時点）の待機児童を抱え、保育園の新設を進めているが、近隣の同意を得る難しさが浮き彫りになった。



開園予定地はJR総武線本八幡駅から約1キロの住宅街の一角。同県松戸市の社会福祉法人が約550平方メートルの敷地に定員108人（0歳～5歳）の木造2階建てを計画、昨年10月に着工予定だった。

保育園の建設が予定されていた土地（12日、千葉県市川市で）

市川市によると、社福法人が昨年8月、建設を知らせる看板を現地に立てると、近隣住民が市役所を訪れ、「静かに暮らす権利が阻害される」などと抗議。住民は、社福法人に計画撤回を求め、今年3月には「地域環境に大きな影響を与えてまで建設する必要性に乏しい」として、反対署名549人分を大久保博市長宛てに提出した。

社福法人側は昨年10月と12月に住民説明会を開催し、市川市も住民側と面談を実施したが、住民の意思は変わらず、社福法人は3月22日の理事会で開園断念を決めたという。

12日、記者会見した同市の小西啓仁・こども施設計画課長は「反対の声が大きく、個別の説明はさせてもらえなかった」としたうえで、「市内の他地域に波及しないか心配だ。地域住民の理解を得る努力を重ね、待機児童の解消に努めていきたい」と述べた。

一方、反対の署名をした近くの女性は「看板設置前に何の説明もなく唐突だった。自宅で親の介護もしており、静かな環境で暮らしたい」と話す。別の住民は「道路が狭く、送迎車両が増えると安全確保が難しくなる」と説明した。予定地に面する道路は狭いところで幅約3メートルで車のすれ違いはできない。

鳥栖市が待機児童解消策 3保育園新設へ 定員「260人」の大幅増

佐賀新聞 2016年04月13日

■潜在需要、500人不足か

保育所の入所待ちをする「待機児童」への関心が高まる中、人口増が続く鳥栖市で来春に保育所3園を新設し、幼稚園の1園を認定子ども園に移行する計画が進んでいる。保育所定員は約15%の260人増と大幅に伸びることになり、待機児童解消につながると期待されている。

鳥栖市内の保育所定員は保育所、認定こども園、地域型保育事業所を合わせて1760人。市によると今春は待機児童が5人発生した。特定の保育所に入れられないなどの理由で待機児童数に算入されていない「隠れ待機児童」は180人に上った。多くは0～2歳児という。また、子どもを預けられるなら働きたいという潜在的な需要を含めると、500人程度の保育供給不足があると推計している。

鳥栖市は人口増加などで毎年約700人の子どもが生まれ、共働き世帯が増えていると

みられる。昨年3月、2019年度までの子ども子育て支援事業計画を策定。5年間の保育所、幼稚園などの需要を見込みながら、既存保育所の定員増や0歳児から受け入れることもできる認定こども園への移行、保育所新設などを検討してきた。

新設するのは市内で保育所を経営する二つの社会福祉法人と新規参入する民間企業一つ。定員は認定こども園を合わせて約260人で、総定員は2020人に増える。建設場所は鳥栖西中校区に2カ所、田代中校区に1カ所。認定こども園も田代中校区にできる。

近く園舎などの建設工事に着手し、11月から園児募集、来年4月に開園する予定。市は本年度当初予算に建物などの施設整備費の助成金6億8000万円を計上している。橋本康志市長は「当市は企業進出が多いが、求人は困難を極めている。女性の活躍が期待されており、保育の受け皿を整備し、働きやすい環境を整えていきたい」と話す。

大阪市の認可外保育園で男児死亡 市当局、態勢の不備を確認

共同通信 2016年4月12日

大阪市は12日、同市淀川区東三国、認可外保育園「たんぼぼの国」で4日、預かっていた男児（1）が昼寝中に心肺停止状態になり、搬送先の病院で死亡したと発表した。市は当日を含め、職員が1人しかいない時間帯があるなど保育態勢の不備を確認したとしている。市によると、男児は4日午後2時40分ごろから昼寝し、3時半ごろ、呼吸をしていないことに保育士が気付いた。人工呼吸や心臓マッサージをしたが蘇生しなかった。遺族から通報を受けて同日、立ち入り調査を実施。当日やそれ以前の勤務態勢表から、職員不足の時間帯や保育士不在の時間帯があったことが判明したとしている。

【産経抄】「しつけとしてやった」おしいれの虐待 幸也君は息ができずに亡くなった…4月13日

産経新聞 2016年4月13日

さくら保育園の子供たちにとって怖いものが2つあった。一つは押し入れ、もう一つは、先生たちの人形劇に出てくる、ねずみばあさんである。ある日の昼寝の時間、あきらとさとしは喧嘩（けんか）を始めた。先生は2人を押し入れに閉じ込めた。▼やがて2人の前に、ねずみばあさんが現れる。作家の古田足日（たるひ）さんと画家の田畑精一さんがコンビを組んだ絵本『おしいれのぼうけん』（童心社）である。昭和49年に刊行されて、現在も版を重ねている。▼昭和の子供たちがいたずらをする、親はすぐ押し入れの戸を開けたものだ。といっても、「ごめんなさい」と謝れば、すぐ出してもらえた。奈良県生駒市のマンションの一室で、父親が2歳の幸也くんと姉（3）を閉じ込めたのは、ロック付きのプラスチックの収納ケースである。▼2人は、長さが身長にも満たない小さな箱の中で、30分近くも放置されていた。幸也くんは息ができずに亡くなった。殺人容疑で逮捕された父親は、これまで十数回も同じケースに閉じ込めたと供述している。母親は台所で食事の支度をしていた。市は以前に、「泣く声がする」との通報を受けて、家庭訪問を行っている。ただ、けがやあざがなかったこともあり、保護しなかった。またも虐待死が見逃されてしまった。▼「しつけとしてやった」。虐待事件のたびに繰り返される言い訳を、父親も口にする。しつけは漢字で「躾」、身を美しくすると書く。着物を「仕付ける」から来たとの説もある。縫い目を整えるために、仮に縫い付けておく。仕付け糸がはずされて、着物は完成する。正しい人格を備えた大人になるために、欠かせない作業というわけだ。▼獣も目を背ける残酷な犯罪とは、縁もゆかりもない言葉である。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行